



六中だより

～学校教育目標～

“ 学力と情操 ”

“ 健康と忍耐力 ”

“ 勤労と責任 ”

優しい人

校長 相馬 朋行

「優しい人」といわれて、生徒のみなさんはどのような人を頭の中に思い浮かべますか。

また、『この人は「優しい人」だな』と思う人は身近にいますか。

「優しい人」というのは次のような人なのではないかと私は考えます。

- ・悩んでいる人に対して親身になって相談に乗ることができる人
- ・人の立場や気持ちを理解し、気配りのできる人
- ・愛情をもって人を見守ることのできる人
- ・相手の考えを尊重し、その人の良さを認めることのできる人
- ・人の幸せを心から祝うことのできる人

みなさんは人から優しくされた経験がたくさんあると思います。そういうときは、とてもいい気分になりますよね。私も人から優しくされることがあるたびに、心が洗われる思いがします。

先日、次のようなことがありました。駅のホームで私が電車を待っていたときに着用していたマスクのゴムが切れてしまいました。ちょうど電車がホームに入ってきたときだったのですが、私は口を手で押さえたままホームに立ち止まっていました。そのとき、私の後ろから走ってくる人がいました。その人は、私に対して、「これを使ってください。」といってパックに入った1回分のマスクを差し出してきたのです。とてもうれしかったです。私は、常時、カバンの中に予備のマスクを入れてあるので電車に乗る前にそれを着用するつもりだったのですが、その人にとって私はとても困っているように見えたのだと思います。その優しさは私の心にしみました。見ず知らずの人間に対して遠くから駆け付けてマスクを差し出すという行為はそう簡単にできるものではないと思います。こういうのが本当の優しさだと感じました。

また、逆に、みなさんはこれまで何度も人に優しくしてきたことがあるのではないかと思います。疲れている人や暗く沈んでいる人に優しくして、その人が元気を取り戻した様子が感じられると、自分自身もうれしくなったということもたくさんあったのではないのでしょうか。

このようなことから、人が相互に助け合い、信頼し合う基本は「優しさ」であるといえそうです。

そもそも「優」という字は「イ(にんべん)」に「憂」と書きます。「憂」という字は、送り仮名を付けて「憂う(うれう)」というように使われ、「思い悩んだり心配したりすること」を意味します。このことから、「優しい人」というのは、人が悩んでいることを自分のことのように受け止められる人ということがいえるのではないのでしょうか。

また、同じ「優」の字を使う「優れている」という言葉があります。したがって、「優しい人」は「優れている人」であるといつてよいのではないのでしょうか。

みなさんにはこれからもずっと「優しい人」を続けてほしいと思っています。

鎌倉 校外学習に行ってきました！

1年生は1月27日に鎌倉まで校外学習に行ってきました。初めて生徒だけで学校外に出る一大行事、11月から班で準備を重ねてきました。当日は寒空の下、生徒だけで行動をしました。見知らぬ土地、初めての通勤ラッシュ、様々な困難に立ち向かいつつたどり着いた大仏や鶴岡八幡宮の景色は、感慨深いものがあったのではないのでしょうか。武蔵野台駅に帰ってきた皆さんの顔は、充実感でいっぱいでした。実行委員や班長はもちろんのこと、全員が係としての仕事を行い、力を合わせてきた成果が出せたのではないのでしょうか。1年生も残りわずか、2年生に向けて一回り成長した一日となりました。



左■ 1組1班
鶴岡八幡宮にて

右■ 6組2班
「力を合わせて」

書初め展

冬休みの宿題で書いた書き初めを教室に貼りました。1年生は元気な字が多く、これからの成長が楽しみです。2年生は1年生の頃に比べて大きく成長し、優秀な作品が多く見られました。3年生は受験のラストスパートという忙しい中でも、さすが最高学年だと感じさせる素晴らしい作品を出してくれました。ご家庭でのご支援に感謝いたします。

今年度の優秀作品は府中市立小中学校第21回連合書写展覧会に出品し、府中市立美術館に1月28日(土)～2月7日(火)まで飾られました。1年生5名、2年生5名、3年生6名の作品を出品いたしました。

また、出品作品を含めた優秀な作品には、校内で金、銀、銅の賞をつけ、短冊が貼られる予定です。来年度は北多摩中学校毛筆書写コンクールに出品する予定ですので、ぜひ頑張ってお賞を目指してください。